

い代案を作らなければならぬと云ふのであつた。

此の大統領の五ヶ年計畫の内容に關しては、リーイ作戰部長は更に次の如く擴張計畫の内容を發表した。

- 一、現在建造してゐる主力艦二隻の外に毎年度二隻、合計十隻の主力艦を建造する。
  - 二、現在英國に對しては劣勢であり、日本に對して僅かに均等である甲級、乙級巡洋艦を増強する。
  - 三、年々四隻、乃至五隻の潜水艦を新造して、今後五ヶ年間に艦齡超過のものを除き潜水艦の隻數を三十二隻にする。
- つまり一九三四年、米國下院海軍委員長グインソン氏と、上院海軍委員長トラメル氏の協同に依つて作成した所謂「グインソン、トラメル建艦案」を廢棄して新艦法を作らうと云ふのである。此の「グインソン、トラメル案」は百二隻の建

艦を目標にしたものであるが、實際に於ては潜水艦の單艦トン數の關係から合計九十八隻の建艦案になつてゐる。

ところが、今年になつてから、前述の如くルーズベルト大統領の教書に基いて新擴張案を計畫するに至つた。大統領の意圖する新しい代案とは何であらう——。それは去る五月正式に大統領の署名を了した「新グインソン案」である。下院海軍委員長グインソン氏は、新擴充に關する大統領の教書が發表されるや否や直ちに之が具體的立案に着手したのである。之が即ち「新グインソン案」と云はれる新艦案である。

議會に於ては兩院の平和論者から猛烈に反對されたが、結局「新グインソン案」は殆んど原案通り通過したのである。いまその内容を見ると、主力艦三隻（四五、〇〇〇噸）航空母艦二隻、巡洋艦八隻、驅逐艦二十三隻、潜水艦九隻以下補助艦艇二十六隻を含む合計七十一隻の建艦計畫であつて。而も此の計畫で注目すべき



ことは従來議會で通過しなかつた各種補助艦艇の整備に力を注いでゐることである。リーイ作戦部長も、他の艦種の建造は多少延期しても、補助艦艇の整備は渡洋作戦上絶対に必要な旨を語つてゐる位に、「新・ヴァインソン案」では此の補助艦艇の補充に重點を置いてゐるのである。従つて此の新擴充案が實現すれば米國海軍の現有勢力は二割の増強となり、十八隻の主力艦以下巡洋艦四十八隻を含み、合計二百七十九隻、百五十二萬六千トンとなるのである。

世界第一の海軍國たる米國が何故、斯くの如き老成なる計畫を更に必要とするのであるか、それは云ふまでもなからう。

海軍が、専ら防禦のために使用されるものであれば、いま海軍を新たに擴張する必要はない。政府は海軍擴張を考へるに先だち、よろしく外交政策を明示すべきである。政府は十一億ドルのヴァインソン建艦案（新・ヴァインソン案、筆者註）に對する支持を獲得せんとして、國民をヒステリーに追ひやらんとしてゐるのであ

る。（ベネット・クラーク）米國海軍の高官連は、諸外國に對する惡意並びに憎惡の宣傳を利用してゐる。米國の實際的必要に關する冷靜なる判断と云ふ事は、主として海軍省の防害工作に依つて不可能となつてゐる。海軍省は輿論を誤らせて外交政策を專斷しようとしてゐるのである。（ヘンリー・ラッキー）等々と云ふ工合に、一度新・ヴァインソン案が議會に提出されるや、平和論者、軍擴反對論者達は一齋に論難攻撃した。斯うした反對論に對して、軍擴論者や、海軍當局者達は「今回の建艦計畫は、米國が世界の他の國と協同して侵略戦に出でんとする計畫とは全く關係がないものである。米國民は、米國政府が、侵略戦に備へるため、或は國際警察乃至は同盟に加入するために海軍擴張を行ふのであるならば、一弗と云へどもその費用を出すことには賛成しないであらう」と、シャア／＼と云ひかけてゐるのである。彼等は決して支那事變勃發以來、百十弗臺のステール株が暴落し、約三分の一の四十弗臺にまで落ちた不景氣對策として、莫大な金を喰ふ軍



艦建造をすることであること、英國との均等海軍力を保持しなければならないこと、日本の祕密軍備が恐ろしいこと、西太平洋に於ける日本の勢力を抑へなければならぬこと等には、爪のあと程も觸れやうとしないのである。

軍擴主義者の代辯者達が、さうした言辭を弄しても、米國の海軍擴張計畫が何を目的としてゐるのか世界の誰もが知つてゐることである。事實、此の新建艦案は、八億ドルから、十一億ドルに増加修正されて兩院を通過してゐる。要するに米國の軍擴反對論者としても、海軍當局の意圖してゐるところを素早く見抜いてしまつてゐるのである。國內の不景氣對策も緊急を要するものであるし、太平洋進攻作戰のための大艦隊整備もまた喫緊を要することであるのだから、條約量の二割増強となる大擴充計畫が目出度く通過したのである。

ルーズベルト大統領は米國隨一否世界一の海軍狂である。海軍擴充計畫は彼の趣味でもあるのだ。だから、彼が大統領就任以來産業復興計畫の一項目としての

建艦計畫を取上げて以來海軍豫算は急増し、これまで議會を通過しなかつた計畫を片つ端から實施して行つたのである。海軍當局は文句なくルーズベルト大統領を神様の如く崇拜し、ルーズベルトの誕生日を「ネビーデー」(海軍記念日)として、お祭り騒ぎをするのもまた故あるかなである。

## 五、空の進攻作戰

太平洋進攻作戰は、既に述べたるが如き艦隊勢力ばかりではない。「空の進攻作戰」即ち「太平洋航空戰略」もまた見逃すことが出來ない。本年頭初、米國が英國からの讓渡交渉に成功した南太平洋上フェニックス群島中のカントン、エントベリー兩島は、明瞭に航空戰略的意圖から要求されたものであつて、前者は水上機、後者は陸上機の基地として着々諸般の設備が進められてゐるのである。



ワシントン條約第十九條の規定してゐるところに依ると、太平洋上に存在する諸島の海軍根據地は將來強化しないことになつてゐる。ところがその後、一九三四年には、我國はワシントン條約廢棄の通告を各國に發し、一九三六年十二月三十一日をもつてワシントン條約は有効期間を終つてしまつたのである。さうなると米國は真先に太平洋空の制覇を目指して積極的に乗り出したのである。

當時米國は三千八百六十キロ（二千百五十海里）を一氣に翔破し得る大飛行艇を有つてゐた。

我々の記憶にまだ生々しく残つてゐるものに「チャイナ・クリツバー」がある。此の快速飛行艇はマルチン水上機であつた。一九三五年四月に「チャイナ・クリツバー」は、サンフランシスコとマニラ間の第一回往復飛行に成功したのに力を得て、續いてその年の十一月に第二回目の計畫を樹て、十二月には姉妹飛行艇「フライリツピン・クリツバー」の往復飛行を決行したのである。斯くして翌一九

三六年には郵便物、旅客を輸送することとなり、毎週一回の定期航空路が開かれることになつたのである。

此の定期航空路の寄航地は、ホノルル、ミッドウエー、ウエーク、グアムであつて、實際の飛行時間は六十時間である。之等の島々は、從來太平洋上の孤島として世外にあつたのであるが、現在は俄然、太平洋航空路の根幹をなす地位になり、同時にまた米國の太平洋進攻作戰の中樞たるハワイの有力なる觸角となつたのである。

米國は斯うして先づ中部太平洋航空路の幹線を開拓するとともに、南太平洋上マーシャル群島東方の諸島にも着目した。此の方面には、既述の如く、ナウル、オーション、ギルバート、フェニックス、ハウランド・ペーカー、ジャルグイスの諸島があるが、之等は何れも英國に所屬するものである。

ところが、今から數年前米國政府は、ハウランド・ペーカー、ジャルグイス島等



に青年移民を送つたことがある。それ以來、無人島としての之等の島々が合衆國領となつた。一九三七年七月東廻世界一周飛行を決行した米國の女流飛行家イヤハート女史のロックヒード・エレクトラ「空の實驗室」號が、機上よりハウランド島に「半時間分の燃料を残すのみ、着陸地発見し得ず」との悲壯なる救助電報を發したまゝ、南太平洋の怒濤の中に永久に姿を消してしまつたのは、此のハウランド島を中心にしての不幸な事件であつた。

此のイヤハート機は六月一日フロリダ州マイアミを出發し、その後約一ヶ月間プエルトリコ、ナタール（ブラジル）ダカール（西アフリカ）シンガーポール、バンドング（ジャバ）を経て、ニューギニアのレーに到着し、七月一日レーを出發してハウランドに航路を取つたものである。

太平洋空の進攻航路の一つとしてのハワイ、ギルバート、木曜島をつなぐ航路の開拓に力を注いでゐる米國にとつては、イヤハート女史の壯舉が失敗に終

つたことは限らない傷手であつた。如何に當局がイヤハート機の成功を期待してゐたかは當時の米國海軍當局の大捜査網に依つても判るのである。

空の實驗室號遭難——の報を受けた米國海軍は直ちに「レキシントン」が六十三臺の飛行機を搭載して現地に急行し、主力艦コロラド以下サウスアルド、チャンドラー、ウォーデン、ドレイトンの四隻の驅逐艦は相前後して同様捜査に向つたのである。斯くして前後十數日、ハウランド島より、フェニックス群島の海面一帯に、必死の大捜査網を張つたのであるが、『空の實驗室』號は、永久に米國には戻らなかつたのである。當時帝國海軍も、此の大捜査に協力したことは記憶に新しいことである。

本年一月十一日、エドウィン・ミュージック氏を機長とした「シヨルスキー」機は、サモアのバコバコを出發し、オー克蘭ドに向ふ途中故障を生じ、そのまゝ行衛不明になつた。サンフランシスコ、オー克蘭ドの全航程は一萬一千キロ



で、その中間には、ホノルル、キングマン、バコバコの諸島がある。

空の進攻線は、こゝにも一つ計畫されてゐるのである。即ち、サモアを經由してハワイとニュージールランドとを連絡する航空路がそれである。此の航路は一九三六年に、汎米航空輸送會社とニュージールランドとの間に正式に交渉がまとまりチャイナクリツバーの鼻祖たる、サンフランシスコ、マニラ定期航空路の開拓者たるミュージック氏が試験飛行に成功したのは、一九三七年四月であつた。その後引續き第二回の試験飛行で、遂に彼も永久に魔の南太平洋に身を委してしまつたのである。

これ等が、米國海軍の渡洋進攻作戦と並行して、熾烈なる努力を傾注してゐる空の三大進攻線である。即ち第一線がハワイ、ミッドウエー、ウエーク、グアムマニラ、香港を結び、中央太平洋を横断してゐる太平洋定期航空路で、第二線はイヤハート女史が決行したハワイ、ハウランド・ベーカー、ギルバート、木曜島

をつなぐ航路であり、第三線がミュージック氏が第二回の試験飛行で犠牲となつた汎米航空會社のハワイ、キングマン、エンタペリー、バコバゴ、ニュージールランドを連結する航空路である。

斯くして米國の進攻航空路は、中央太平洋から南太平洋にかけて、その附近の島々を有力な基地にして堅實な網を張つてゐるのである。

本年四月米國政府は、總額二千八百七十五萬一千弗をもつて太平洋沿岸の艦隊根據地を擴充することに決定したが、之と同時に、艦隊根據地の前衛基地として中央太平洋上の飛行基地建設、擴充等は勿論、ハワイより西廻り洋上のフレンチフリゲート、ミッドウエー、ウエーク、ハウランド・ベーカー、キングマン、バルマイア、ジョンストン等の諸島に對しても、夫々航空基地としての諸般の設備を完全にしてゐるのである。

ところが、最近は更にまたマーシャル群島東方にも目を付け、ナウルウ、オー



シヨン、ギルバート方面の島にも有力な前進基地を建設せんと計畫してゐる。本年の頭初南太平洋上の赤道の直ぐ南に位置するフェニックス群島中のカントン、エンタベリー兩島を米領と決定した等のことは、明瞭に同方面の航空路開拓について烈々たる野望をもつてゐることを證明するものである。

カントン島は最も廣いところで約六百ヤードの珊瑚礁である。エンタベリー島の長さは約二哩半と云ふ小島で、最近まで列國は殆んど目にも止めなかつた無人島であつが、獨り米國のみは既に數年前ハワイの青年移民や、測量技師、無電技師等をこゝに送つて、祕かに飛行基地建設の準備を進めてゐたのである。

米國の太平洋航空進攻作戦は、その優秀な飛行艇と、無數に散在する太平洋上の珊瑚礁を足場にして、中央、南太平洋上に自由の航空網を張つて、西太平洋進出線を建設してゐるのである。

## 第十章 英米提携の可能性

英米は世界最大の資本主義國家である。この兩大國が提携するか否かは、たしかに世界の大問題である。

昨年七月、日本が東亞大陸に正義の兵を進め、俄然戦局は全支那に擴大するや英米佛は一齊に援蔣行動をとり、海軍再軍備と云ふことで、對日壓力を結成せんとしたのである。即ち、形式こそ違つて居れ同一趣旨の建艦通報要求問題こそは明瞭に協同動作を意味するものである。追従主義の佛蘭西はともかくとして、少くとも英米の協同行動は注目しなければならない。

ルーズベルトのシカゴ演説を中心にして、英米提携の議は愈々熾烈となり、英國保守黨の元老ウキンストンチャーチルが、『いまや英國の外交方針は米國政府



の全面的支持を得てゐる……』と絶叫し、一氣に英米兩國の提携問題が具體化するかに見えたが、却々簡單ではなかつた。米國は、その國際的孤立主義の傳統的精神を一擲して、英國と協同提携すると云ふことについては、なほ眞劍に考へなければならなかつたのである。

そも／＼英米提携に就いて、一番氣を遣ひ、積極的なのは英國であることは云ふまでもない。過去の軍縮協定に於て、英國は『若しも英米が協同したならば、日本は直ちにその主張を放棄するであらう』とまで極言してゐるのであつて、英國の意圖するところは、全く日本の牽制策であつたのだ。

そこで、英米提携が實現するかどうかの問題は、一に兩國の意志如何に依るのであつて、今日の様な複雑且つ微妙な國際情勢下にあつては、單純に結論づけることは出來ないのである。

我々は暫く此の問題を中心にして、客觀的な國際關係を見なければならぬ。

先づ過去に遡つて、日清戦争直後の世界の情勢では、熾烈に展開された支那の分割運動があつた。その頃の英國は、中歐に於ける獨逸に對して準備しなければならなかつたし、南阿の情勢も容易に樂觀を許さないものがあつたのである。そしてまた、極東方面の權益を確保することも急を要するものであつた。従つて英國は、此の分野に於て、協同者を必要としたのである。當時、米國が著しく極東進出を企てたことは、此の間の事情を物語るものであらう。

一九二五年、シンガポールで開かれた、海軍司令官會議に於て『日米戦争が起つた場合には、英國は中立權の擁護に努めなければならぬ。そして、そのためには、大なる海軍力を必要とする』との意見が有力に交換された。

このことは、太平洋に於ける戦争を考慮に入れた議論であつて、その際英國も當然戦争の渦中に入らざるを得ないと云ふのである。だからと云つて、英國は米國と提携して、積極的に太平洋で戦争を惹き起す様な態度をとるものと即断する



ことは出来ない。英國としては、一應歐洲問題を解決し、此の方面で安全と云ふ結論を得なければ、極東には積極的には手を出し得ないだらうし、米國にしても、極東方面の情勢とは無關係に、太平洋の問題を考へることは出来ないのである。要するに、英米提携問題に就いては、現實の國際情勢は常に障害を與へてゐるのである。

ロンドン軍縮會議直後、佛蘭西、伊太利間に於て、その海軍力の均等問題が論議された。その時佛蘭西は、地中海の安全保障に加入するならば、伊太利と均等海軍力でもいゝと主張したが、之に對して英國は、此の事に關し、米國が同意するならば賛成であるとの意向を有してゐた。

ところが、米國政府は反對意見であつたため此の協定は失敗してしまつたのである。斯様な現象は滿洲事變の際に於ても見られる。

當時米國は、歐洲諸國と同一歩調をもつて、日支問題に介入せんとしたのであ

つた。然し、今度は英國、佛蘭西が同意しなかつたのである。

更にまた、一九三三年の、獨逸の國際聯盟脱退の際には、英國は米國を誘つて對獨制裁を加へんとしたのであるが之も米國から斷られてしまつた。エチオピア問題の時はどうであつたらう。此の時も英國から米國に對伊制裁に就いて話を持ちかけたのであつたけれども、米國が反對でウヤムヤのうちに終つてしまつてゐるのである。

つまり、英米提携の問題は、極東と歐洲に對する英米兩國の利益の對立から、觀念的には實現出来ない問題であるのだ。極東問題に就いては、誰が何と云つても日本の存在を無視することは出来ないのであるから、如何なる國といへども、極東に關する限り日本の意見に反對した政策は採り得ないのである。

今回の支那事變に於て、過ぐる日、我が方の誤認に基く米艦バネー號爆沈事件に際しても、英國は事重大と推測して、英米協同對日抗議を策したが、國務當局



は米國は世界如何なる國との協同動作をも考慮して居らず、日本政府が此の不幸なる事件の續發を防ぐため如何なる誠意ある處置をとるか、事態の推移を暫く靜觀する旨の聲明を發して、英國の態度に反對の意志を明かにしたのである。

結局英米提携のことは、シーソーゲームの如く、或る時は英國が音頭をとり、また或る場合は米國がイニシヤティブをとつて、掛聲はかけられるけれども、實を結ばない實狀にある。

だが、現状打破ブロック國家の存在と、現状維持を利益とする國家の存在、そして之等の對立的現象は苛烈になりつゝあることは、最近の國際情勢の著しい傾向である。これが、最近の外交的鬭争の基本的な問題となつてゐるのである。そこでまた、通商問題を中心にしての英米の接近が、新しく問題になるのである。實際、防共協定の成立或は支那事變を契機にして、從來の軍事協定主義から、通商會談の方へと英米提携の狙ひ所が變つて來たのである。言ふまでもなく米國は

幾多の商品を英國に輸出してゐるのであつて、殊に最近著しくなつた經濟恐慌を前にして、何とかして對英輸出の擴張を企圖してゐるのである。

だが、英國が強烈に米國との提携を希望する大きな理由としては、太平洋に於ては、英國は單獨でその地位を守る事が出来なくなつたと云ふ認識から出發してゐることである。

だが筆者は英米提携の傾向は必ずしも實現不可能だと斷定するのではない。殊に防共協定ブロックの堅實なる發達は、當然之等英米の現状維持ブロックに脅威を與へるのであるから、否應なしに英米——事情に依つては佛蘭西も加はる——提携は促進されることになるのである。

全體主義の諸國家が、歐洲、極東方面に支配權を確立すれば、その後は之等の諸國家は、西半球、米國、カリブ海、カナダにまで目を付けるだらう。事態が斯くの如くなれば、英國、佛蘭西は米國の國防第一線となる譯で、米國の死活問題



である。

これが、英國『國際政策協會』會長ライモンド・ビュエルの如き考を抱き、米國の傳統的精神である「國際孤立主義」は、過去の遺物であると主張する者が、漸次米國の輿論の一部を形成しつゝあることは、注目すべき現象である。然しながら、之が直ちに明日の米國の外交政策となつて、現れるかどうかにはなほ慎重に検討することを必要とするであらう。

さきに一言した如く、英國の態度は、少くとも太平洋に於ては、英國の獨力で、その地位を確保し得ないとの觀點から出發して居り、チェンバーレンやイーデンは、極力英米外交政策の一致協力を求めてゐるのである。

英國はブラッセル會議の失敗を、米國の消極的態度が原因をなしてゐると宣傳してゐるけれども、公平な外國の政治家、外交家達の間では、英國こそが、會議失敗を招いた責任者であると見てゐる。

今回の支那事變で、何處が一番影響を受けたかと云ふならば、それは、英國であることは一點の疑のないところである。米國經濟使節の調査資料に依れば、一九三五年度の對支投資は、英國の十億ドルに對し米國は五分の一の二億ドルであり、支那に於ける外國投資の五分の二は英國で、商船に於ても、總噸數の五分の二は英國の商船である。

さて、以上の様な事實から、我々は如何なることを感じなければならぬだろうか――。

極東に於ける米國の經濟發展を現状のまゝに評價してはならないと云ふことである。近來極東に於ける米國の經濟的發展が著しく伸張しつゝあり、地理的にも米國は英國よりも極東に近いと云ふことは、たしかに英國にとつての重大問題である。權益が多い英國が、一番打撃を受ける事は當り前のことであるけれども英國自身に見れば、それだけ米國の進出を氣に病まなければならぬ苦しい



立場にあるのである。だから、英國は、英米提携の實現を絶對的に必要としてゐるのであるが、さりとてまた一貫した態度をとり得ない理由がそこにあるのである。英國も米國も、兩者ともに、兩國提携についてはしばらく努力をしてゐるのであるが、互に虚々實々の政策をとり、一貫した政策の統一がないのである。従つて「英米提携」は左様簡單な問題ではないと云はざるを得ない。

## 第十一章 危機四二年の列國海軍力

### 一、米 國

一九三六年の「ロンドン」海軍條約に依れば、此の條約の有効期間は、一九四二年十二月三十一日までとなつてゐる。従つて現在英、米、佛が如何にあせつても此の條約の効力がある限り、勝手な建艦が出来ないのである。ところが、アメリカにしても、英國にしても如何に理由をつけても造りたいのである。殊にアメリカの如きは國內の景氣對策の一つとして建艦計畫を遂行したいのであるし、英國もまた極東の情勢に藉口して大建艦計畫を遂行したいのである。斯うした英、米の慾求が、ロンドン條約の制限條項離脱となり、而も、自分達



が一番造りたいのだとは云はず、日本が制限外のものを造り、大建艦計畫を進めてゐるから、之に對抗するために既存條約の制限を廢棄しようとするのである。けれども今度英米佛が會議を開いた結果廢棄することになつた制限條項は、主力艦關する限りのものである。勿論この艦種の制限がなくなれば、ロンドン條約の生命は失くなつたと同様であつて、たとへ、骨抜きになつたにしろ、死文になつたにしろ、條約全體として廢棄せざる限り、四二年の有効期間までは嚴然として掣肘を受けるのである。

そこで、英米佛は、愈々四二年が終つて四三年一月となり、蓋を開けて見た時に、何處の國よりも強い海軍力を持ちたいと云ふ肚で、着々その準備を進めてゐるのである。

然らば、列強は現在如何なる建艦計畫で、無條約の四三年一月に備へてゐるかを検討しやう。

先づ、大建艦の大御所は何と云つてもアメリカである。殊に、ルーズベルト大統領は大の海軍狂である關係も手傳つて、ル大統領の就任以來の米國海軍豫算は次に見る如く急激に膨脹してゐる。

一九三三年（産業復興）	三四九、五六一、〇〇〇ドル
一九三四年	二七四、五八八、〇〇〇ドル
一九三五年	三二一、四一〇、〇〇〇ドル
一九三六年	四八三、〇六三、〇〇〇ドル
一九三七年	五二八、一〇二、〇〇〇ドル
一九三八年	五一六、二五九、〇〇〇ドル
一九三九年	五七〇、〇〇〇、〇〇〇ドル

之等の外、産業復興費の中から二億八千八百萬ドルが支出されて居り、之は一九三三年度建艦法案に依る建艦計畫費に振り向けられてゐるのである。



アメリカには、大量建艦計畫として、本年議會を通過した（法案豫算案とも）一九三八—三九年度建艦案及び、第二次ヴェインソン案の外に、既に産業復興計畫に基く建艦案、第一次ヴェインソン案（所謂百二隻建艦案）があつて、ワシントンロンドン兩條約量一杯の補助艦の建造を目標にして進んで來てゐるのである。次にその内容を示さう——

△産業復興計畫に依る建艦計畫（一九三三年）

航空母艦二隻（單艦噸數二萬トン）

ヨークタウン、エンタープライズ（全部完成）

乙級巡洋艦四隻（單艦噸數一萬トン）

サバンナ、ブルックリン（完成）ナツシビル、ヒラデルヒヤ（完成）

嚮導驅逐艦四隻（單艦噸數七千四百トン）

ポーター、セルフリッジ、マクドーガル、ウインズロー（全部完成）

驅逐艦十六隻（單艦噸數一千五百トン）マハン以下十五隻（全部完成）

潜水艦四隻（單艦噸數一千三百トン）ポーボイス以下三隻（全部完成）

砲艦二隻（單艦噸數二千トン）エリー、チャールレストン（全部完成）

合計三十二隻、十一萬六千四百トンであつて、現在三十隻だけ完成してゐる。

△ヴェインソン案に依る建艦計畫（一九三四年）

航空母艦一隻（單艦噸數一萬四千五百トン）

ワスプ

甲級巡洋艦一隻（單艦噸數一萬トン）

ウイチャタ（一九二九年度議會で通過したもの）

乙級巡洋艦五隻（單艦噸數一萬トン級三隻、八千五百五十トン級二隻）

一萬トン級フェニックス、ボイス、ホノルル

八千八百五十トン級セントルイズ、ヘレナ（五隻とも全部一九二九年度議會



で通過したもの)

嚮導驅逐艦五隻(單艦噸數一千八百五十トン)艦名省略

驅逐艦六十隻(單艦噸數一千五百トン)艦名省略、(完成せるもの七隻)

潜水艦三十隻(單艦噸數一千四百五十トン)(完成せるものパーチ以下五隻)

合計百二隻、二十萬八千五百五十トンで、完成せるものは十三隻である。此の兩案の建艦計畫は、百三十四隻(三十二萬四千九百五十トン)建造案であるのだが、現在までに竣工した隻數は四十二隻である。

けれども、一九一九年度、一九二九年度の建艦案では既に、航空母艦一隻、以下甲級巡洋艦、驅逐艦合計二十三隻建造してゐるのであるから、之を合計するとアメリカの補助艦の現有勢力は

甲級巡洋艦十七隻(建造中一隻)

乙級巡洋艦十二隻(建造中七隻)

航空母艦四隻(建造中二隻)

驅逐艦四十四隻(建造中三十七隻)

潜水艦二十二隻(建造中十六隻)

合計九十九隻、約四十九萬トンになる。之に十五隻の主力艦を加へると約九十六萬トンになり、本年七月に完成した航空母艦一隻をはじめ、乙級巡洋艦四隻驅逐艦、潜水艦等約二十隻が引續き出來上る豫定であるから、總トン數は百萬トンを突破することになるのである。一九三七—三八年年度の計畫で、主力艦の代艦建造として、昨年十月二十七日に着工した十六吋砲搭載の三萬五千トン級主力艦ノースカロライナ、ワシントンの二隻は、一九四一年までに完成する豫定になつてゐるので、その頃のアメリカ海軍勢力は、約百二十五萬六千八百八十トンになる。

既定の計畫に基くものとしては大體以上の如きものであるが、本年度議會を通過した一九三八—三九年度建艦案がある。之はル大統領の豫算教書に依つて計畫



されたものであつて、その内容は

主力艦二隻（十六吋砲搭載、三萬五千トン級）

乙級巡洋艦二隻（七千五百トン級）

驅逐艦八隻（一千五百トン級）

潜水艦六隻（一千四百トン級）

潜水母艦一隻、掃海艇一隻、給油艦一隻、航洋曳船一隻、合計二十二隻で、之等の計畫は直ちに本年七月から着工されてゐる。

然しながら、急ピツチで建艦計畫に乗り出して來たアメリカは、なほ尨大な計畫を樹てる様になつて來た。即ち本年一月二十八日發表されたる大統領の新國防方針なる教書は、明かに米國海軍の新建艦計畫の前提を示したものととして、列強は頗る注目してゐたのであるが、果せるかな此の新國防方針指示の教書に則つて下院の豫算委員長ヴェインソン氏は、總額八億ドルに上る新建艦案を作成したので

ある。之が「第二次ヴェインソン案」或は「新ヴェインソン案」と云はれる新建艦計畫である。之も去る三月二十一日に下院を通過し、上院に廻付されてから、盛に「アメリカを戦争の危険に導くものである——」とか、何のかんのと騒がれたが結局十一億ドルに増加修正されて何のことなくアツサリ通過してしまつた、此の計畫は情勢の變化に應じて變更し得ることにしてゐるが、大體

主力艦三隻（三萬トン級乃至四萬五千トン級）

航空母艦二隻（二萬トン級）

巡洋艦九隻

驅逐艦二十三隻

潜水艦九隻

補助艦二十六隻

海軍機九百五十機（第一線機）



を内容にしたものである。此の計畫のうちで特に注目を要するのは、補助艦艇二十六隻の整備である。米國海軍の不動の鐵則である渡洋作戰を遂行するためには必然的に多數の補助艦艇を必要とするものであつて、従つて、最近の米國海軍備の主たる目標は、此の補助艦の整備に置かれてゐるのである。

ところが、此の問題にしても、第二次ヴァインソン案に依つて初めて大量建造計畫が出て來たものではなく、實は一九一六年と、一九二九年建艦法は大體に於て補助艦の建造を内容にしたものであるし、更にそれよりも大量な計畫としては、一九三八年度議會に提案したが、不通過に終つた建艦法がある。いまその内容を示せば次の如きものである。

驅逐母艦三隻（單艦噸數一萬トン）

潜水母艦一隻（單艦噸數一萬トン）

工作艦二隻（單艦噸數一萬二千トン）

給油艦一隻（單艦噸數一萬四千トン）

水上機母艦四隻（單艦噸數一萬五百トン）

給糧艦二隻（單艦噸數一萬二千トン）

病院船一隻（單艦噸數一萬二千五百トン）

航洋曳船十隻（單艦噸數一千トン）

掃海艇十五隻（單艦噸數一千トン）

機雷敷設艇一隻（單艦噸數一千トン）

特殊掃海艇七隻（單艦噸數一千五百トン）（補助航空母艦を兼ね）

測量艦一隻（單艦噸數五千トン）

とにかく、米國海軍首脳部の間には少くとも、之等の補助艦艇を整備することの方が、徒らなる大艦巨砲の主力艦建造よりも急務であると感じてゐるのであつて、米國海軍は、明けても暮れても渡洋進攻の攻撃的野望をもつて着々その準備を進めてゐるのだ。



之等の計畫が實現すれば、その現有勢力は

主力艦十八隻	六三八、〇〇〇トン
航空母艦八隻	一六五、〇〇〇トン
巡洋艦四十八隻	四一三、〇〇〇トン
驅逐艦百四十七隻	二二八、〇〇〇トン
潜水艦五十八隻	八二、〇〇〇トン

で、合計二百七十九隻、百五十二萬六千トンになる。之に補助艦を加へると約三百數十隻、百八、九十萬トンを保有することになるのである。

## 二、英 國

米國海軍の、斯くの如き老大な建艦計畫に痛く影響を受けるのは英國である。

従つて英國は米國との對抗上更に大建艦計畫を實行しようとしてゐる。主力艦だけについて見ても、現有十五隻の外に五隻建造してゐるが、本年度に於ても更に

二隻を建造せんとして居る。英國の建艦計畫は毎年度の計畫としてその都度實施されて來てゐるのであるが、一九三四年度からの計畫並びにその工事進捗狀況は次の如くである。

### △一九三四年度建艦案

- 巡洋艦四隻（九千トン級三隻、五千二百トン級一隻）
- 航空母艦一隻（アークロイヤル二萬二千トン、本年夏完成の豫定）
- 驅逐艦九隻（嚮導驅逐艦一隻、ヒーロー級八隻）
- 潜水艦二隻（沿岸用）
- その他制限外艦艇十四隻

### △一九三五年度建艦案

- 巡洋艦三隻（九千三百トン級、本年度完成の豫定）
- 嚮導驅逐艦一隻



駆逐艦十五隻（イントレピット級八隻、一千八百五十トン級七隻）  
潜水艦三隻（本年度中に完成の豫定）

その他制限外艦艇十三隻（六隻は未起工）

△一九三六年度建艦案

主力艦二隻（キングジョージ五世、プリンス・オブ・ウェルス）

巡洋艦五隻（サザンブトン級二隻、五千三百トン級三隻は未起工）

駆逐艦九隻（一千六百五十トン級七隻は未起工）

航空母艦一隻

潜水艦四隻

その他制限外艦艇十七隻（二隻は未起工）なほ追加豫算に依り巡洋艦二隻、

航空母艦一隻、駆逐艦九隻、潜水艦四隻を加ふ

△一九三七年度建艦案

主力艦三隻（キング、ジョージ五世級「アンソン」「ゼリコー」「ピーター」）

航空母艦二隻（一隻だけ起工済）

巡洋艦七隻（八千トン級五隻、五千三百トン級二隻）

駆逐艦十六隻（J級（一、六五〇トン級）五隻起工済）

潜水艦七隻

その他制限外艦艇四十五隻

之等各年度の計畫進捗は多少遅速はあるけれども、大體順調に工事が進んでゐる。ところが英國は去る二月二日、再軍備五ヶ年計畫を發表して、一九三八―三九年度豫算に於て三億四千萬ポンド（邦貨約五十八億三千万圓）を計上し、而も本年度中に建造に着手すべき艦艇として

主力艦二隻

航空母艦一隻



甲級巡洋艦四隻

乙級巡洋艦三隻

潜水艦三隻

水雷敷設艦三隻

工作艦三隻

河用砲艦二隻

その他若干

合計二十一隻の建艦を計畫をしてゐる。以上が英國の最近に於ける建艦計畫であるが、本年一月現在の現有勢力を見ると

主力艦十五隻（艦齡外なし）

航空母艦六隻（艦齡外三隻）

水上機母艦二隻

甲級巡洋艦十五隻（艦齡外なし）

乙級巡洋艦四十五隻（艦齡外六隻）

驅逐艦百六十四隻

潜水艦五十四隻

その他制限外艦艇若干

合計三百一隻であるが、之に本年夏までに完成する豫定になつてゐる航空母艦一隻、乙級巡洋艦三隻、驅逐艦七隻、潜水艦三隻を加へると三百十五隻、約百三十萬トンになるのである。更にまた、現在建造中の主力艦五隻は、向ふ四ヶ年で完成するとすれば、一九四〇—四一年頃の勢力は頗る尨大なものとなる。

その上國防五ヶ年計畫に基き、一九三八年度に於ては、一舉に主力艦二隻を建造する計畫であつて、之は必然的に巡洋艦以下の建造を伴ふのであるから、主力艦は二十二隻となり英國海軍多年の宿願である主力艦二十五隻、巡洋艦七十隻保



有の目標は大體實現する譯である。その他補助艦艇を合計すれば約四百隻、二百萬トンと云ふ空前の大海軍力となるのである。

### 三、佛 蘭 西

佛蘭西海軍の目標は、常に獨、伊の海軍を對象にして居り、従つて同國の海軍軍備の根本方針としては、獨伊海軍力より更に十萬トンを整備すると云ふことである。一九三六年十二月同國の海軍參議官會議で決定した、所謂海軍擴充十ヶ年計畫は、此の點を強調したものである。

そこで、最初に計畫された老大なプランはワシントン條約締結直後の八十萬トン計畫である。即ち

主力艦 一七五、〇〇〇トン  
航空母艦 六〇、〇〇〇トン

水上補助艦 三九、〇〇〇トン（水上機母艦、巡洋艦、驅逐艦）

潜水艦 一二五、〇〇〇トン

特務艦 五〇、〇〇〇トン

その他若干

要するに、主力艦と航空母艦をワシントン條約の許容量一杯に建造し、之に伴つて各艦艇を整備しようとするのであつた。

然しながら、列國の建艦速度は容易に佛蘭西の追従を許さず、且つ又佛蘭西自身は海軍のみならず、陸軍、空軍にも老大な豫算を振り向けなければならぬのである。その上また政治組織に於ても、獨逸、伊太利とは全く異なるため建艦能力も著しく低く、八十萬トン整備計畫の一九三七年九月三十日までの進捗状況は左の如くで十六萬トンは未起工である。

主力艦（竣工一隻、建造中三隻）



- 甲級巡洋艦（竣工七隻）
- 乙級巡洋艦（竣工八隻、建造中四隻）
- 航空母艦（竣工一隻）
- 水上機母艦（竣工一隻）
- 嚮導驅逐艦（竣工三十隻、建造中二隻）
- 驅逐艦（竣工二十九隻、建造中三隻）
- 潜水艦（竣工七十四隻、建造中四隻）
- 特務艦（竣工三十隻、建造中十隻）
- その他（竣工二隻、建造中四隻）

合計竣工百八十三隻、建造中三十隻である。一九二二年の八十萬トン整備計畫は既成艦艇四八一、一七六トン、建造中のものが一四二、九〇〇トン、合計六二四、九二四トンにまで達したのであるが、目標とする八十萬トンまでにはなほ十六萬

九千トンを残してゐる現状である。

ところが、列國の情勢は刻々に變化し、殊に一九三七年になつてから新興獨、伊の海軍は素晴らしい發展を遂げるに至つたので、佛蘭西としては之を黙過するこゝとが出来ず、従來の計畫完成を急ぐと同時に、八十萬トン計畫に五萬トンを追加し、八十五萬トン整備計畫に變更して一九四二年までに此の計畫を完成し、獨伊の海軍に對抗することにしたのである。

△八十五萬トン整備計畫

- 主力艦三隻（一〇五、〇〇〇トン、三萬五千トン級）
- 甲級巡洋艦三隻（三〇、〇〇〇トン、一萬トン級）
- 乙級巡洋艦三隻（二四、〇〇〇トン、八千トン級）
- 航空母艦一隻（一五、〇〇〇トン）
- 驅逐艦（二〇、〇〇〇トン）



潜水艦（一五、〇〇〇トン）

その他（一〇、七〇〇トン）

此の計畫のうちで、一九三七年度に起工すべきものとして發表した隻數は左の五十一隻約五萬トンである。

乙級巡洋艦一隻（ラ・ガリソニエル級七千六百トン）

驅逐艦六隻（ハルデイ型一千七百五十トン級二隻、新型一千トン級四隻）

潜水艦七隻（一千五百トン級三隻、八千トン級二隻、沿岸用二隻）

特務艦三十七隻（水上機母艦四隻を含む）

更に、昨年十月發表された一九三八年度建艦計畫に依れば、總豫算二十九億三千万フランで、合計十四隻、五萬五千トンが本年度中に建造に取りかゝることになつてゐる。その計畫には次の如きものである。

航空母艦二隻（二萬二千トンの豫定）

巡洋艦一隻（八千トン、六吋砲搭載）

大型水雷艇三隻（一千七百七十トン、艦隊随伴用）

小型水雷艇三隻（一千トン）

大型潜水艦一隻（一千五百トン）

小型潜水艦四隻（八百トン）

之でやつと一九四一、二年頃には八十五萬トンの勢力を保有することになるのであるが、佛蘭西としては、此の程度の建艦が精一杯であつて、今後の歐洲に於ける情勢は必ずしも、佛蘭西の樂觀を許さないものがあり、老大國佛蘭西の惱みは愈よ深刻である。

#### 四、伊 太 利

從來、伊太利海軍は、その地理的な條件より、列強海軍の如く大艦の必要なし



とし、専ら潜水艦と飛行機の充實に主力を注いで來たのである。そして、潜水艦は量的にもまた、質的にも英國を凌ぎ、空軍勢力に於ても、世界最大の空軍國たるフランスと匹敵する様になつてゐるのである。更にまた、M・A・S（海艦）と云ふ怪兵器は、地中海の英國艦隊を文字通り恐怖のドン底に叩き落してしまつたのである。

だが然し、伊太利海軍は絶対に主力艦を必要としてゐないのかと云へば、決してさうではない。一九三四年十月に起工された三萬五千トン級主力艦、リットリオ、ヴェイットリオ・ヴェネツトの二隻は、既に昨年七月、八月に相次いで進水してゐるし、また、一九一四年、一九一五年建造のチェザーレ、カヴウールの二艦（各二萬一千五百五十五トン）も改装工事に着手されて居る。而も、此の二艦は改装に依つて、速力は〇、五ノット増加して二十三節となり、三〇、五種砲十二門を三三種砲十門、カタバルト、バルヂ等を装備し、全く新鋭主力艦に近代化さ

れる豫定である。斯くの如く、伊太利海軍も、近代的主力艦の建造を熱烈に要望して居り、大海軍建設を目標にしてゐることは、列強と同様である。

ワシントン會議以來、伊太利海軍は對佛バリテールを目標としてゐるが、現有勢力を見ると、フランスの約四十八萬一千トンに對して四十一萬トンと云ふ劣勢である。

此の劣勢海軍力を一氣に盛り返さうとするのが、新興伊太利海軍の大目標であり、三萬五千トン級主力艦の建造と同時に、潜水艦、水雷艇、驅逐艦等の建造にも全力を注ぎつゝあるのである。工事の進捗状況に依ると、驅逐艦の既成は百隻で建造中のものは十二隻である。潜水艦もまた、一九三四年、十二隻、一九三五年、十隻、一九三六年、十二隻、一九三七年、二十隻と云ふ具合に起工されて、目下建造中のものは十九隻一萬七千トンある。之は一九三九年度に完成する豫定であるから、その結果は總數百八隻に達するのである。



こゝで注目すべきことは、一九二〇年から三〇年の十年間に伊太利が建造した約三十隻の驅逐艦の排水量は八百六十トンから千四百五十トン（オリアン型）に漸増して居り、昨年度から本年度にかけて起工されたオリアン改良型十二隻は、千六百トン、速力三十九節となつて居る。更に目下計畫中の十二隻はスカウツ型と云はれる新鋭艦で、二千トンを排水し、速力は四十節と傳へられてゐる。之は明かに佛蘭西海軍に對抗せんとするためであり、地中海の完全制覇を、目標にしてゐるのである。

本年二月に於る現有勢力は

主力艦四隻（九〇、三五四トン）

水上機母艦一隻（四、八八二トン）

甲級巡洋艦九隻（八七、九二二トン、舊式装甲巡洋艦二隻一七、九二二トンを含む）

乙級巡洋艦十七隻（八一、一二八トン、新式巡洋艦六吋砲搭載十二隻を含む）

驅逐艦百隻（一〇二、五〇八トン、水雷艇を含む）

潜水艦六十七隻（五〇、九九八トン）

合計百九十八隻（四一七、七九〇トン）

であるが、現在建造中の艦艇は次の如きものである。

主力艦二隻（三五、〇〇〇トン級、リットリオ、グイットリオ・ヴェネツト）

乙級巡洋艦二隻（七、八七四トン級、アブルツチ、ガリバルヂ）

驅逐艦十二隻（一、六〇〇トン級、オリアン改良型）

水雷艇十六隻（六〇〇―六一五トン級、スピカ級改良型）

潜水艦十九隻（九四一トン級四隻、八九六トン級三隻、一、一二七トン級一隻、六七五トン級七隻）

ところが、一九三八―三九年度豫算に於ては、海軍豫算二十億一千三百萬リ



ラ（邦貨約四億三百萬圓）を計上して、新艦建造費その他に充てゝゐる。即ち本年度以降の建艦計畫は、三萬五千トン級主力艦二隻を含む尤大なものであつて、その内容は

新鋭主力艦二隻（三五、〇〇〇トン級「ローマ」「インペロ」本年一月起工）  
エクスプロレーター型巡洋艦十二隻（索敵艦艇）

潜水艦九十二隻（一千トン級八隻、中型三十六隻、小型四十八隻、何れも本年度中に完成の豫定）

そこで、之等の計畫が實現する一九四〇―四一年に於ける伊太利海軍の全勢力を示せば

主力艦

リットリオ型（三五、〇〇〇トン）四隻

新装カヴウル型（二四、〇〇〇トン）四隻

巡洋艦

一萬トン級七隻

五千トン乃至八千トン級十二隻

哨戒艦

大型哨戒艦十二隻

二千トン級哨戒艦十二隻

驅逐艦 四十隻

水雷艇 三十二隻

潜水艦 百隻以上

その他若干

となり、フランス海軍を壓することは勿論、英國海軍にとつてもまた少からざる脅威を與へる艦隊となるのである。



### 五、獨逸

軍事平等權の獲得は、ヒットラーの重要スローガンであつた。従つて、ヴェルサイユ條約の廢棄宣言こそ、新興獨逸海軍建設に與へた輝かしい希望の星であつた。即ち獨逸は、一九三五年六月の英獨海軍協定に依つて、先づ、對英三五バールセントの軍備權を許容され、ワシントン、ロンドン兩條約に依る英國の保有量一、二一〇、七〇〇トンに對し四二〇、五九五トンの保有が認められたのである。そこで此の條約量を規準としてその内譯を見ると次の様になる。

	英國	獨逸
戰艦	五二五、〇〇〇	一八三、七五〇
甲巡	一四五、八〇〇	五一、三八〇
乙巡	一九二、二〇〇	六七、二七〇

航母	一三五、〇〇〇	四七、二七〇
驅逐	一五〇、〇〇〇	五二、五〇〇
潜水	五二、〇〇〇	一八、四四五
合計	一、二一〇、七〇〇	四二〇、五九五

但し、潜水艦に就いては總トン數に變化なき限り、即ち他艦種の保有量を減少させる場合は、英國と同量を保有することが出来るのである。然し、それとても豫め英國と討議しない限り四五バールセント以上は建造しないことになつてゐる。

そこで此の協定と當時の獨逸の現有勢力との比較を見れば次の如くで、質的制限の個々のものについては大體に於て第二次ロンドン條約と同様である。

戰艦	制限
	三五、〇〇〇トン



航空母艦

許容量	一八三、七五〇トン
現有	三〇、〇〇〇トン
差引	一五三、七五〇トン

168000

制限	二三、〇〇〇トン
許容量	四七、二五〇トン
現有	ナシ
差引	四七、二五〇トン

甲級巡洋艦

制限	一〇、〇〇〇トン (備砲二〇、三糎)
許容量	五一、三八〇トン
現有	ナシ

4200  
 470  
 -----  
 0000  
 0000  
 -----  
 168000

乙級巡洋艦

差引	五一、三八〇トン
制限	一〇、〇〇〇トン (備砲一五、五糎)
許容量	六七、二七〇トン
現有	三五、四〇〇トン
差引	三一、八七〇トン

驅逐艦

制限	一、五〇〇トン (保有量の一八パーセントまでは一、八五〇トン級のものを建造する事を得)
許容量	五二、五〇〇トン
現有	九、六〇〇トン
差引	四二、九〇〇トン



## 潜水艦

制限	二、〇〇〇トン
許容量	五二、〇〇〇トン
現有	三、〇〇〇トン
差引	四九、〇〇〇トン

此の英獨海軍協定成立後三週間で、獨逸は二萬六千トン級主力艦二隻以下一萬トン級巡洋艦、驅逐艦、潜水艦、航空母艦等合計四十七隻の建造に着手し、同時にまた、一九三六年から向ふ六ヶ年の整備計畫として百四隻、四十三萬三千トンの計畫を發表した。

一九三七年九月三十日に於ける現有勢力は

戰艦三隻 (三〇、〇〇〇トン)  
舊式戰艦二隻 (二六、四〇〇トン)

乙級巡洋艦六隻 (三五、四〇〇トン)

驅逐艦十六隻 (二五、九〇〇トン)

潜水艦三十六隻 (一二、四二四トン)

水雷艇十二隻 (九、六〇〇トン)

合計七十五隻 (一三九、九五二トン)

である。戰艦三隻は獨逸獨特の一萬トン級豆戰艦と云はれるもので、有名なドイツエランドを初めとして、アドミラル・シエール、アドミラル・グラーフ・シユペー等であり、舊式戰艦はシユレージエン、シユレスヴァイヒ・ホルシユタインの二隻である。乙級巡洋艦は、エムデン、ケーニヒベルグ、カールスルーエ、チルン、ニユールンベルグ、ライプチヒである。之に現在建造中のものを合計すると隻數に於ては百五隻になるので、一九四一年頃の四十三萬トン計畫は、實現確實である。次に本年一月現在の建艦狀況は次の如く、合計九十六隻と云ふ尤大な



計畫である。

主力艦

シャルンホルスト (二六、〇〇〇トン 一九三六年十月進水)

グナイゼナウ (二六、〇〇〇トン 一九三六年十二月進水)

F (ハノーヴァ代艦、三萬五千トン) 建造中

G (三萬五千トン) 計畫中

甲級巡洋艦

アドミラル・ヒツパー (一〇、〇〇〇トン 竣工)

ブリュッヘル (同)

プリンツ・オイゲン (一九三八年八月進水)

乙級巡洋艦

K (一〇、〇〇〇トン) 建造中

L (同)

M (七、〇〇〇トン) 建造中

N (同)

O (同)

航空母艦

A (一九、二五〇トン) 建造中

B (同)

驅逐艦

Z 17——Z 22 (一、八一—トン) 建造中

水雷艇

T 1——T 12 (六〇〇トン) 建造中

T 13——T 18 (同) 計畫中 (四隻建造に着手)



潜水艦

U 37 — U 44 (七四〇トン) 建造中

U 45 — U 51 (五一七トン) 同

U 52 — U 55 (同) 計畫中

U 56 — U 61 (二五〇トン) 計畫中

掃海艇

M 1 — M 14 建造中

特務艦

建造中……………七隻

計畫中……………十三隻

(註) 獨逸の潜水艦はあまりに有名であるが、大戦當時アイルランド沖でルシターニア號を要撃したU 20號潜水艦の排水量は僅か五六〇トンであつた。獨

逸の潜水艦は列強のと比べて割合に小型である。U 1 — U 13までは二五〇トンで、之は大戦當時北海で英艦を沈めたU 9と同型である。U 27 — U 36までは五〇〇トンでU 25とU 26ブレイメン級二隻は七一二トンで最大のものである。



## 第十二章 主力艦の現状

科學の著しい進歩は、兵器の上に重大なる影響を及ぼし、その行きつくところは全く豫測することさへ許されないものがある。その進歩を無條件で、宗教的に信仰する譯ではないが、少くとも將來既成の艦艇に就いて根本的に考へ直すべき時期が來るだらうことは想像に難くないことである。

かつて、二十數年前英國海軍方面で、潜水艦萬能を唱へたものがあつたが、その後此の主張も一世を風靡するに至らず、現状はむしろそれとは反對に、主力艦中心主義に進んでゐる。ところが數年前、今度は米國で航空機の發達に鑑み、海軍軍備に主力艦不要を叫んだものがある。然し此の意見も一時的な現象に終り、今日では、異常な發達を遂げた潜水艦、航空機その他と並行して、益々、主力艦

の整備が問題とされてゐるのである。

今日列國が斯様に主力艦を問題にするに就いては各々その理由があるのであるが、筆者はいまこゝでは、主力艦とそれに附随した問題を取り上げるだけに止めて置く。最近よく新聞紙上その他で三萬五千トン級十四吋だの、四萬五千トン級十六吋だの十八吋だのと云ふが、主力艦に搭載する大砲の口徑がまた排水と不可分の關係に於いて頗る重要な問題なのである。

新ロンドン條約の規定に依ると、備砲口徑は十四吋となつてゐるのであるが、帝國海軍の主力艦、陸奥、長門を初めとして、英國のネルソン、ロードネー米國のコロラード、メリーランド、カルフォルニア等は何れも十六吋の巨砲を搭載してゐるのである。もつとも此の條約では、ワシントン條約の締約國の一國が新ロンドン條約の規定を遵守する協定を結ばなかつた場合は、十六吋にする事になつてゐるのである。



そこで昨年三月英國は、我國に對し主力艦に搭載する主砲の口径を十四吋に制限する協定の申入れをして來たのである。同様なことは六月中旬に米國からも申込んで來た。然しながら「量的制限をせず質的制限のみでは眞の軍縮の目的を達するものでない」との根本方針に則り、此の申入れを拒絶したのである。

然し、英國が目下建造中の三萬五千噸級新主力艦「キングジョージ五世」「プリンスオブウェルス」の二隻は、十四吋砲搭載で工事を進めてゐる。けれども、續いて建造の豫定になつてゐる同級の「アンソン」「ゼリコー」「ビーター」の三隻は、大體に於て十六吋砲搭載に変更せんとしてゐる模様であるから、英國としても必ずしも十四吋砲で頑張る意志はないやうである。米國は勿論、大艦巨砲の總本山だけに十六吋の搭載は決定的である。

備砲が十四吋か十六吋かとの問題に就いては専門家の意見も種々あるが、何んでもかんでも十六吋砲の方が有利だと云ふ譯のものではない。

先づ第一に考へられる事は、巨砲は裝備し得る砲數にも必然的に影響して來るのである。十六吋砲ならば九門搭載する所を、十四吋砲になると十二門も裝備する事が出来るのである。更に又、彈丸の發射速度も十四吋の方が十六吋より早い。歐洲大戰當時、ジュットランド海戦に於て、獨逸の裝備してゐた砲の口径は、英國のものより小口径であつたにも拘らず、事實に於て獨逸は英國を壓倒したのである。かうした生々しい歴史的經驗や、多數の艦艇を保有してゐると云ふ立場から英國は、十四吋主力艦を有利と考へてゐるのである。

けれども、原則として最後の勝利を決定的ならしむるためには、十四吋より十六吋が有利であることは疑のないところである。如何に多數の艦艇を有つ英國としても、我國や米國が十六吋の巨砲を裝備してゐると云ふ現状を無下に黙視することが出来ないのである。



次に「艦齡」の問題である。

一九二二年（大正十一年）のワシントン海軍軍備制限條約に依ると、二十年と規定したのであるが、一九三〇年（昭和五年）のロンドン海軍條約では二十六年となつた。

斯くの如く、艦齡を條約で定めたのは代艦建造を制限するためであることは明かであるが、ワシントン條約では二十年であつたのが、ロンドン條約では何故二十六年になつたかと云ふことである。それは改装技術の進歩の影響である。

最初ワシントン條約當時には、二十年を経過したら、最早第一戦には使用出来ないだらうと考へた。然るに、その後の列國の改装技術は素晴しく進歩し、改装の結果は、二十年よりも更に長く壽命を保つと云ふことが判つたのである。従つてロンドン會議の際には、向ふ六ヶ年間は主力艦は建造しないと云ふ協定を結んだのであるから、自然主力艦の艦齡は六年延びたことになるのである。

之を『戦艦建造休日』と云ふのである。

ところが、現在は無條約時代であるから、勿論艦齡等と云ふことに拘束される必要はないのである。英國は差當り新主力艦七隻を建造（一九三八年度計畫二隻を含む）する豫定であるから、之を既成の十五隻と合せると二十二隻になり、主力艦二十五隻保有の計畫は着々進捗してゐるのである。

x

x

艦齡問題に關聯して、改装問題がある。即ち近代化である。一旦艦齡に達したものを改装して、その軍艦の壽命を七年も八年も長くしようとするのである。

所が、之がまた相當莫大な費用がかかるのである。例を英米にとつて見ると、英國の戦艦ワースバイトは、最初の建造費が二百四十萬ポンドであるが、改装費は百三萬ポンド（邦貨約一千八百萬圓）であり、米國の戦艦アリゾナは建造費二千二百萬ドルに對し改装費は七百四十萬ドル（邦貨約二千七百萬圓）である。



そこで、英米は具體的に如何なる改装をしたであらうか、勿論それは各艦に依つて違ひがあるのだが、

一、大砲の仰角を増した

これは彈丸のとゞく距離を延ばしたことであつて、改装の結果は三萬三、四千米位になつた。

二、装甲板を水平に張り繞らした

これは飛行機からの爆彈を防禦するためである。

三、飛行機防禦のため高角砲を多數搭載した

四、汽罐を新しくして、速力を増加した

五、射撃装置を新式にし、射撃能力を増加した

六、魚雷防禦のためバルヂ装置をした

等が主要なる改装の點である。

斯くの如くして近代化された列國の主力艦は次の如きものである。

(英 國)

クキンエリザベス級(三一、一〇〇トン)五隻(クキンエリザベス、ワースバイト、マラヤ、バラム、バリアント)

之等の五隻は世界大戰前に、英國が、獨逸の主力艦を凌駕する目的で建造されたものであつて、備砲の巨大なることは勿論、速力も獨逸の巡洋艦が有してゐる二十五節の高速を出した。

ロイヤルソーパー級(二九、一五〇トン)五隻(ロイヤルソーパー、ロイヤルオーク、レベンジ、ラミリス、レゾルーション)

この級のものは、建造當時は石炭を燃料として速力も二十一節であつたが、建造途中に於て重油を専焼するやうに取換へ、速力も二十三節となつた。一説には改装の結果速力は二十二節に落ちたと傳へられてゐる。



ネルソン級(三三、五〇〇トン)二隻(ネルソン、ロードネイ)  
大戦の経験と、航空機の發達を考慮して建造されたものであつて、外側に出張  
つて取付けられてゐたバルヂは、艦體内部の改善に依つて撤去されてゐる。  
レナウン級(三二、〇〇〇トン)二隻(レナウン、レバルス)

この二隻は最初ローヤルソールベレーン級の主力艦として計畫されたのであるが  
建造中に巡洋戦艦に變更され、主砲二門を減じて速力の増大をはかり、その結  
果二十三節から三十一節の高速になつたものである。

## (米 國)

アーカンサス(二六、一〇〇トン)水中防禦としてバルヂを造つたことが、主  
要な改装であつたが、その結果排水量は三千トン増加してゐる。

ニューヨーク級(二七、〇〇〇トン)二隻(ニューヨーク、テキサス)  
重油専焼とし、バルヂの装備、防空設備を改善し、カタバルトを備へ、排水量

は三千トン増加した。

オクラホマ級(二九、〇〇〇トン)二隻(オクラホマ、ネバタ)  
マストの改装、主砲の仰角を上げ、バルヂを装備した。

アリゾナ級(三二、六〇〇トン)二隻(アリゾナ、ペンシルバニア)  
高角砲を増備しカタバルト、バルヂを装備した。

ミツシツビー級(三三、〇〇〇トン)三隻(アイダホ、ミツシツビー、ニューメ  
キシコ)

バルヂ、高角砲を増備し、カタバルト、装甲を増強し、主要機關を取換へた。  
カルフォルニア級(三二、〇〇〇トン)二隻(カルフォルニア、テネッシー)  
主砲仰角を三十度高めて、彈着距離を三萬五千ヤードとした。

コロラド級(三二、五〇〇トン)三隻(コロラド、メリーランド、ウエストバ  
ーヂニア)



前述のカルフォルニヤ級の改装と同様であるが、特に三重船底構造としたことは注目すべき改装である。

## (佛 國)

ブレタニユー級(二二、〇〇〇トン)三隻(ブレタニユー、ローレーン、プロバンス)

重油専焼とし、主砲仰角を十八度より二十三度に上げ、彈着距離も三萬三千米とした。その他高角砲を増加し、速力は二十三節となり、ローレーンはカタバルトを装備してゐる。

クールベ級(二二、〇〇〇トン)二隻(クールベ、パリス)

何れも主砲仰角を高めた。

## (伊 國)

カブール級(二三、〇〇〇トン)二隻(カブール、セサレ)

カタバルトを装備し、第一、第四砲塔は三聯装とし、速力は二十三節に増大した。(改装後の速力は二十七節とも傳へられてゐるが適確には不明である)

x

x

最後に、現在列國が有つてゐる主力艦で、最も新しいものは佛蘭西の「ダンケルク」と獨逸の豆戦艦と云はれる「ドイッチェランド」「アドミラル・シエール」「アドミラル・グラフ・シユベール」であつて、英國の「ネルソン」「ロードネー」等は海に浮んでから既に十年にもなるのである。

然しながら、計畫中のものでは先づ英國の五隻(キングジョージ五世、プリンス・オブ・ウエルス、アンソン、ゼリコー、ビーター)を筆頭に米國の二隻(ワシントン、ノースカロライナ)伊太利の四隻(リットリオ、ヴィットリオ・ヴェネツト、ローマ、インペロ)佛蘭西の三隻(ストラスブル、リシユリユー、ジャンパール)獨逸の四隻(シャルンホルスト、グナイゼナウ、F、G)で合計十八隻



が、目下夫々の國で工事が進められてゐるのである。

先にも一言した如く、之等の主力艦に搭載する備砲の口径は各國區々で、英國は十四吋、米國が十六吋、佛蘭西は十五吋と云ふことが傳へられてゐる。

けれども、こゝで見逃してならないことは、新主力艦の速力の問題である。最近のワシントン電報に依ると、獨伊兩國は、目下建造中の主力艦の速力は、少くとも三十節を有する由で、佛蘭西もまた新建造の主力艦は三十節にする豫定であり、若し之が實現すれば、米國は之に對應して主力艦建造計畫の變更を餘儀なくされる事を傳へてゐる。

そこで、日英米の既成主力艦の速力はどの位か。日本の陸奥、英國のロードネーは何れも二十三節であるが、米國のウェストヴァージニヤは二十一節一で佛蘭西のダンケルクは三十節である。ところが獨逸、伊太利、佛蘭西で目下建造中の主力艦の速力は驚異的に高められてゐる。

(獨逸) シャルンホルスト級(二萬六千噸)三十節の豫定

(伊太利) リットリオ級(三萬五千噸)三十節

(佛蘭西) リシユリユー、ジャンポール級(三萬五千噸)三十節——三十二節  
これに對して、英國のキングジョージ五世級(三萬五千噸)は二十八節、米國のワシントン級(三萬五千噸)は二十六節——二十七節に豫定されてゐる。

米國の新主力艦ワシントン、ノースカロライナは、備砲は十六吋であるが、速力は目下建造中の何れの國のものよりも低いのである。

然しながら、一概に高速主力艦の出現を恐れる必要はない。

高速主力艦の限りない強味はその機動性にあるのであるが、現在の建艦技術をもつてしては、同じ三萬五千噸級で二十七節と三十節のものを比較すれば後者の方が著しく装甲を減じなければならぬのである。

装甲の比較的弱いこの主力艦は、たゞ機動性を唯一の武器として戦ふ譯であつ



て、獨逸、伊太利、佛蘭西等が高速主力艦を建造してゐると云ふのは、英米に比して數に於て少い自國の主力艦陣容をその機動性に依つて補はんとするのである。

獨伊佛が、斯くの如き新主力艦を計畫し、しかも正にそれが海に浮ばんとしてゐる事は、大海軍國の英米も默視することが出来なくなり、米國海軍の一部に於ては既定計畫を變更しない限り致命的脅威を受けなければならぬとして、ワシントン級主力艦の建造計畫變更の意見を吐くものがあり、英國はまた、キングジョージ五世級の備砲を十四吋とし、之に依つて全重量の三〇パーセントを節約して、速力と装甲に向けるのだとも傳へられてゐる。

何れにしても、大艦巨砲と並行して、新しく高速力を有する主力艦が要求されて居り、いまや、建艦技術の上に革命的變更を來しつつあるのである。

## 附記

## 太平洋に於ける列國海軍現勢

## ▼米 國

## 〔亞細亞艦隊〕

巡洋艦一隻（オーガスタ）砲艦十一隻、掃海艦一隻、ヨット一隻、驅逐母艦一隻、驅逐艦十三隻、潜水母艦一隻、潜水艦六隻、補助航空母艦一隻、その他特務艦艇十二隻。

## 〔合衆國艦隊〕（太平洋方面配備のもの）

戰艦十二隻、潜水母艦五隻、甲級巡洋艦十五隻、乙級巡洋艦九隻、潜水艦二十八隻、航空母艦三隻、大型飛行艇母艦二隻、小型飛行艇母艦八隻、敷設艦六隻



驅逐母艦四隻、驅逐艦八十一隻、掃海艦十五隻、特務艦十二隻

▼英國

〔支那艦隊〕

巡洋艦六隻、航空母艦一隻、驅逐艦十隻、潜水艦十七隻、潜水母艦一隻、河用砲艦十八隻、スループ五隻その他若干

〔東印度艦隊〕

巡洋艦三隻、スループ六隻、

〔濠洲海軍〕

巡洋艦三隻、水上機母艦一隻、驅逐艦三隻、スループ二隻、特務艦二隻

〔ニュージールランド艦隊〕

巡洋艦二隻、練習艦一隻、スループ二隻、特務艦一隻

〔印度海軍〕

スループ五隻、測量艦一隻、その他特務艦三隻

〔加奈陀海軍〕

驅逐艦四隻、掃海艇三隻、その他二隻

▼佛蘭西

乙級巡洋艦一隻、砲艦八隻、河用砲艦十隻、測量艦三隻

▼伊太利

砲艦一隻、河用砲艦一隻

▼ソ聯邦

驅逐艦十隻、潜水艦約六十隻、砕氷船五隻、河用砲艦十三隻、魚雷艇約八十隻  
特務艦十六隻、潜水母艦一隻、警備艇四隻



▼シヤム

砲艦六隻、驅逐艦三隻、海防艦一隻、水雷艇十三隻、潜水艦二隻、練習艦二隻  
その他十三隻

▼智利

戦艦一隻、海防艦一隻、巡洋艦三隻、驅逐艦十一隻、給油艦二隻、潜水艦九隻  
潜水母艦一隻、その他若干

太平洋と列強海軍 (終り)

昭和十三年九月五日印刷  
昭和十三年九月十日發行

不許複製

太平洋と列強海軍

定價一圓三十錢

著者

中村伸康

發行者

東京市神田區小川町二ノ一〇  
高山金一

印刷者

東京市神田區須田町二ノ三  
加室正義

印刷所

東京市神田區須田町二ノ三  
須田町印刷所

發行所

東京市神田區小川町二ノ一〇  
高山書院

電話神田八一〇番  
振替東京八三八九三番



著 スーイツ・クンラフ  
譯 共平弘田半・郎太銳東伊

# 對馬海峽

(戰事實小說)

之は、盟邦ドイツが生んだ情熱詩人フランク・ツイー  
スの精魂を傾けての絶對的傑作だ。作者は此の作品を  
創造するために、數年の永きに亘り、ありとあらゆる  
權威ある文獻を涉獵した。彼の凄じいばかりの真相追  
求の手から逃れえた文獻と云ふものは、一つもない。  
此の點で本書は日本海峽に關する最高文獻たると同  
時に、他面、作者のもつ藝術的感覚は、老大四十五隻  
のバルチック艦隊の遠航と、對馬海峽における大海戰  
を叙するに當り、比類なき文學的リアリズムを生むに  
到つた。

日本海峽戰を扱つた文學中、ロシアはプリポイの「ツ  
シマ」を生み、日本は水野廣徳の「此の一戰」をもつ  
て對し、今やこゝにドイツは本書を高々と掲げた。寔  
に之、舷々相磨すの壯觀ではないか！譯文流るゝが如  
く、いさゝかの滯滯もない。

(四六判上製四三〇頁、定價壹圓六十錢、稅十六錢)

東京市神田區小川町二ノ十番  
高 山 書 院

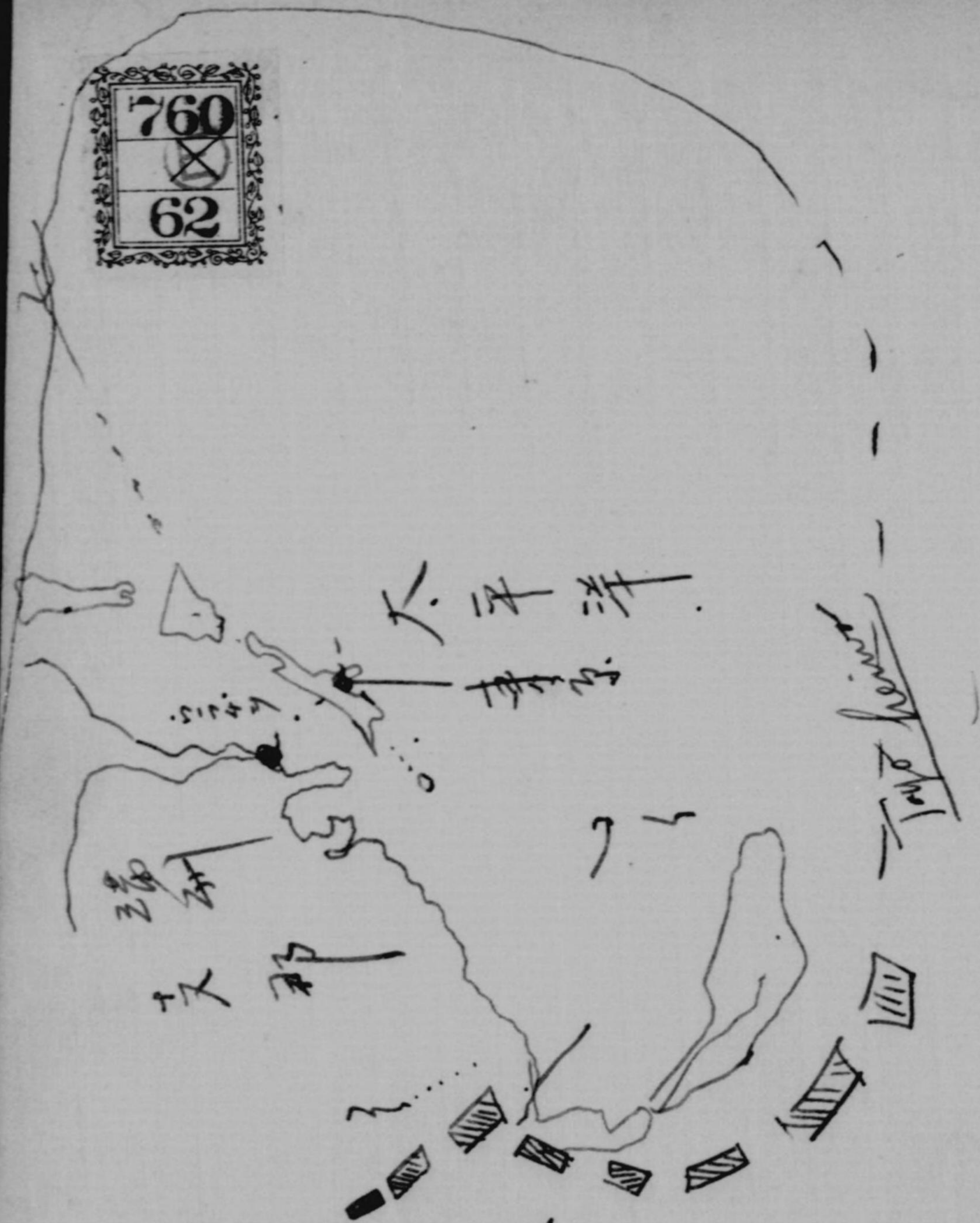
對馬海峽

*Tachibana*

*Shirayama*



760  
62

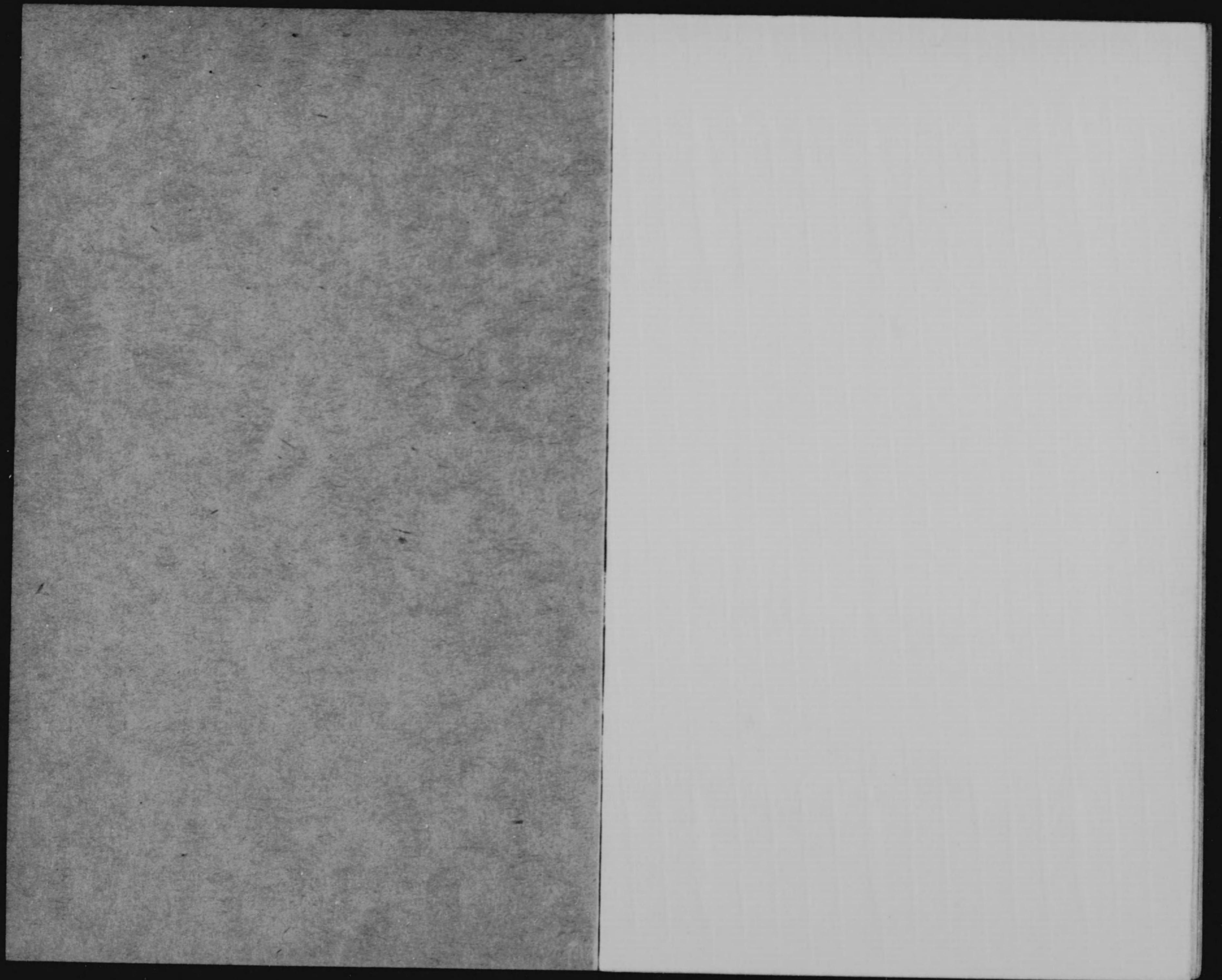


東亞的理想

東亞共榮圈

對馬海峽







760  
62



